

筑波大学留学生センター日本語補講コースにおける 学習者のニーズ調査の概要

関崎 博紀

要 旨

現在、筑波大学留学生センターでは、補講コースにおける日本語教育のスタンダードの構築を進めている。本稿は、コース設計の参考とするために実施したニーズ調査の概要を報告するものである。調査は、補講コースの受講希望者に対して実施し、合計389名から回答を得た。具体的な分析結果は、別稿に譲る。

【キーワード】 ニーズ調査 補講コース 日本語教育スタンダード

A Learner Needs Analysis Conducted for the Supplemental Japanese Courses at the International Student Center of the University of Tsukuba

SEKIZAKI Hironori

【Abstract】 At the International Student Center (ISC), we are designing Japanese language education standards. The needs of students joining the Japanese language courses were analyzed for reference in course design. The survey was administered to students wishing to study in the Japanese language courses at the ISC, and 389 answers were collected and analyzed. Details of the results will be reported in other articles.

【Keywords】 Needs analysis, Japanese language course, Japanese language education standards

1. はじめに

筑波大学における留学生数は、1849名（2011年12月1日現在）に上る。本学は、平成21年度には「国際化拠点整備事業（グローバル30）」に採択され、拡大する留学生の受け入れ体制の整備が喫緊の課題となっている。さらには、平成22年度より、留学生センターが文部科学省より「日本語・日本事情遠隔教育拠点」として認定され、筑波大学全体の取り組みとして、国内外の日本語教育の効率化及び発展に寄与することが強く求められている。このような背景の中で、本学の留学生センターで実施している日本語教育は、これまで以上に体系化され、透明性を確保することが求められている。

この目標を達成するための基盤として、現在、筑波大学留学生センターでは日本語教育スタンダードの構築を進めている。ここで言うスタンダードとは、学生の日本語力を規定する基準、到達目標を、技能ごとにまとめたスケールを指す。平成22年度には、筑波大学留学生センターが筑波大学「革新的な教育プロジェクト支援経費」の支援を受け、スタンダード構築に着手した。まず、コースの方向性を検討する際の材料とするために、学習者のニーズを調査した。本稿は、そのニーズ調査の概要と調査紙の回収結果を報告するものである。具体的な分析結果は、本誌所収の各報告を参照されたい（「話す」：許・関崎（2012）、「聞く」：申・酒井（2012）、「読む」：孟・小野（2012）、「書く」：劉・木戸（2012）、「漢字」：魏・加納（2012））。

2. 調査概要

調査の対象は、筑波大学留学生センターの日本語補講コースの受講生である。補講コースは、ゼロスタートのJ100から最上級のJ900まで、9レベルから成る。便宜的に、J100-400を初級、J500-900を中上級と呼ぶ。初級までは総合クラスであり、週5コマの日本語クラスで構成される。中上級クラスは、「文法」「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能別に分かれている。各技能とも、配置されたレベルのクラスを週に1コマずつ選択可能である。また、これらとは別に、初級から上級まで漢字のクラス（K200-700, J961~963）が週に1コマ選択可能である。本調査では、この補講コースに登録した学生が日本語学習に関して持っているニーズを調査した。調査の時期は、2010年度3学期開始時（2010年12月初旬）である。補講コースの登録用紙を配布するオリエンテーションにおいて調査紙も同時に配布し、登録用紙を提出する際に、回答済みの調査紙も提出するよう求めた。

調査紙は、初級用のものを1種類と、中上級用のものを2種類（A・Bバージョン）用意した。中上級用の2種類の質問紙は、質問の内容は同じであるが、その順番を変更してある。このように中上級用を2種類用意したのは、設問が多いことによって回答の信頼性が落ちることを防ぐためである。いずれの用紙にも、学生の背景情報を得るために、所属、身分、国籍、日本滞在歴を記入する欄を設けた。個人の特定につながる氏名や学籍番号を

記入する欄は設けなかった。ニーズに関する質問は、初級用のものは、総合日本語クラスと漢字クラスについて、中上級用のものは、「文法」を除く各技能のクラスと漢字クラスについて行った。質問内容は2つである。1つは、学習の目的、必要性に関するものである。もう1つは、学習者がその場面で遭遇する困難点に関するものである。いずれも自由記述式で回答を求めた。

初級用の設問は、以下のようにした（質問紙のサンプルは資料1を参照）。

Q1. あなたは今、どんな場面で、何をするために〇〇を練習する必要がありますか。

必要性の高いものをできるだけ具体的に書いてください。

（〇〇には、「日本語」または「漢字」が入る）

Q2. その場面で●●時に難しいと思うことは何ですか？

（●●には「日本語を使う」または「漢字を読んだり書いたりする」が入る）

また、中・上級用の設問は以下のようにした（サンプルは資料2を参照）。

Q1. あなたは今、どんな場面で、何をするために「△△」練習をする必要がありますか。必要性の高いものをできるだけ具体的に書いてください。

（△△には、「話す」「聞く」「読む」「書く」「漢字の」のいずれかが入る）

Q2. その場面で「▲▲」時に難しいと思うことは何ですか？

（▲▲には、「話す」「聞く」「読む」「書く」「漢字を読んだり書いたりする」のいずれかが入る）

Q1に先行して、日本語や技能クラスのレベルを記入する欄をそれぞれ設けた。調査用紙は全て日、中、韓、英の4言語で記述されており、回答は最も得意な言語で行うよう指示した。調査紙のサンプルは、本稿末尾の資料に示す。

3. 回収結果

回収の結果を次頁の表1に示す。初級用が164件、中・上級用が合計で225件、合計で389件回収された。初級用の調査用紙の回答言語は、中国語が最も多く、次いで英語が多かった。中・上級用の調査用紙の回答言語は、日本語が最も多かった。

表1 調査用紙の回収結果

回答言語	初級	中・上級A	中・上級B	計
日本語	23	62	54	139
韓国語	7	13	10	30
中国語	80	19	24	123
英語	54	18	25	97
	164	112	113	389

4. まとめ

以上、本稿では、2010年度3学期に実施したニーズ調査の概要と回収結果を報告した。具体的な分析結果は別の報告に譲る。今後、留学生数はさらに増えることが見込まれる。多数の留学生の多様なニーズに応えるコースを検討する際の、貴重な資料としたい。

参考文献

- 魏娜・加納千恵子 (2012) 「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析-K200～K700&J961-963「漢字」の場合-」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：333-344
- 申貞恩・酒井たか子 (2012) 「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析-J500-900「聞く」の場合-」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：289-298
- 許允瑄・関崎博紀 (2012) 「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析-J500-900「話す」の場合-」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：277-288
- 孟熙・小野正樹 (2012) 「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析-J500-900「読む」の場合-」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：299-318
- 劉雅静・木戸光子 (2012) 「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析-J500-900「書く」の場合-」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：319-332

資料1 初級用の調査用紙サンプル

このアンケートは、留学生センターの日本語のコースをよくするためのものです。成績には関係ありませんから、思うことを率直に書いてください。分からないことがあったら、関崎(留学生センター1F教員室)に聞いてください。終わったら、登録票と一緒に2Fの事務室に出してください。

Q1. あなたのことを教えてください。

クラス:	J100	J200	J300	J400		
研究科・専攻・学類:						
身分:	研究生	M1(D1)	M2(D2)	D3	D4	D5
	特別聴講生(短期留学生)		学類生			
	その他 ()					
国:						
日本滞在歴:	年	ヶ月				

Q2.1 あなたは今、どんな場面で、何をするために日本語を練習をする必要がありますか。必要性の高いものをできるだけ具体的に書いてください。(英語、中国語、韓国語で書いてもいいです。)

Q2.2 Q2の場面で日本語を使う時に難しいと思うことは何ですか？できるだけ具体的に書いてください。(英語、中国語、韓国語で書いてもいいです。)

資料2 中・上級用の調査用紙サンプル

このアンケートは、留学生センターの日本語のコースをよくするためのものです。成績には関係ありませんから、思うことを率直に書いてください。分からないことがあったら、関崎(留学生センター1F教員室)に聞いてください。終わったら、登録票と一緒に2Fの事務室に出してください。

Q1. あなたのことを教えてください。

研究科・専攻・学類:

身分: 研究生 M1(D1) M2(D2) D3 D4 D5

特別聴講生(短期留学生) 学類生

その他 ()

国:

日本滞在歴: 年 月

★ これからあなたの日本語学習の必要性について質問します。話す、聞く、読む、書く、漢字のそれぞれについて、あなたのクラスを○で囲んでから質問に答えてください。

「話す」クラス: J521 J621 J721 J821 J923

Q2.1 あなたは今、どんな場面で、何をするために「話す」練習をする必要がありますか。必要性の高いものをできるだけ具体的に書いてください。(英語、中国語、韓国語で書いてもいいです。)

Q2.2 Q2.1の場面で話す時に難しいと思うことは何ですか? できるだけ具体的に書いてください(英語、中国語、韓国語で書いてもいいです。)